

「連合2023平和行動 in 沖縄」派遣団報告

～連合平和オキナワ集會に、全国から1,120名が結集～ 語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう！

連合は、沖縄「慰霊の日」である6月23日から24日にかけて「2023 平和行動 in 沖縄」を現地・沖縄県で開催し、式典には全国から1,120名が参加した。連合福島からは、伊達地区連合の高橋議長を団長に8名で参加した。

23日、那覇文化芸術劇場なは一とで行われた平和式典では、山本章子・琉球大学人文社会学部国際法政学科准教授の「日米地位協定と沖縄」をテーマにした基調講演の後、沖縄戦で亡くなられた御霊と世界中で起きている戦争や紛争で尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りし、参加者全員で黙祷を行った。連合芳野会長からは、「平和の尊さ、戦争の悲惨さを、次の世代にしっかりと語り継ぎ、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを、固く



挨拶する連合芳野会長

誓い合うとともに、連合は

政府に対して国民全体の問題として徹底した議論を重ねるとともに、地域の想いに心を寄せる努力を強く求めていく。平和なくして、私たちの暮らしも労働運動もない。私たち一人ひとりが平和運動の担い手・発信者となり、この輪を共に広げていこう」と挨拶があった。来賓あいさつの後、堀川恵・連合沖縄女性委員会委員長が平和アピール（案）を読み上げ、満場一致で採択し、集會を終了した。

24日は、平和研修行動として、普天間基地を望む嘉数高台公園展望台、嘉手納基地、旧海軍司令部壕、ひめゆり平和祈念資料館、平和の礎などを視察した。

嘉手納や普天間基地見学では、広大な敷地にオスプレイが停留し、米軍兵の住居や娯楽施設等も整備され、米軍基地の負担の重さを目の当たりにした。



連合福島沖縄平和行動派遣団

ひめゆりの塔資料館では、青春を謳歌するはずであった女学生が軍事教育により従軍させられ、過酷な労働の果てに非情で悲しい結末を迎える史実を垣間見、胸が締め付けられる思いであった。

平和の礎に併設される沖縄県平和祈念館では、沖縄の平和なくらしから、徐々に戦争に突入していく経緯や、犠牲となった多くの罪もない人々の写真の展示から、平和への希求はもとより、現在、世界で起きている戦争への怒りや犠牲者の無念へ思いを馳せた。最後に平和の礎にて、沖縄戦で命を失った全国の犠牲者に哀悼の意を捧げ、恒久平和の実現に向けた平和運動継続の重要性を改めて感じた。猛暑の中の行動ではありましたが、高橋団長の統率のもと参加者が協力し成果を上げられたことに感謝申し上げます。（記：連合福島 副事務局長 前田伸吾）

沖縄からの平和アピール

本日6月23日、沖縄は「慰霊の日」を迎えた。78年前、沖縄では、3カ月にわたり国内最大の地上戦が続いた。凄まじく降り注がれた爆弾、嵐の如く吹き荒ぶ砲撃により、約20万人もの尊い命が奪われ、自然豊かなこの地を無残な焦土へと変えた。沖縄戦で犠牲となられたすべての方々に、心から哀悼の意を捧げる。そして、戦争がもたらした惨劇と非人間性を強く心に刻み、平和と不戦の誓いを新たにする。

国土面積のわずか0.6%に過ぎない沖縄に、在日米軍基地・施設の実に約70%が集中している。米軍基地があるがゆえに起こる事件・事故などにより、住民は生命・人権・財産が脅かされ続けている。また、昨年12月に閣議決定された「安全保障関連3文書」では、沖縄を含む南西地域の防衛体制強化がうたわれた。政府から国民に対する十分な説明と合意形成がないまま進められたことに加え、4月に宮古島周辺で起きた自衛隊ヘリの痛ましい事故も相まって、地域住民の不安の声はより一層高まっている。これらは、沖縄だけの問題ではなく日本全体の問題であるとの認識が必要であり、私たちが安心・安全にくらし、働く上で見過ごすことができない課題である。私たち連合は、日本政府に対し、「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」に加え、外交努力による近隣諸国との緊張緩和や地域における不安の払拭を強く求めていく。「2023 平和行動 in 沖縄」に結集した私たちは、「沖縄戦の悲劇を二度と繰り返させない」「沖縄が直面する問題の実相を学び、その解決に取り組んでいく」「世界の恒久平和の実現をめざす」、このことを皆で確認し合い、今後も粘り強く運動を進めていくことをここに誓う。

2023年6月23日 連合2023平和オキナワ集會